

ブログ作文技術(6)

第5章 仕上げ

この章では、「テキストの読み返し方」「テキストの宣伝方法」といった、仕上げ術、宣伝のコツについて書いていきたいと思います。
読み返しでテキストを磨き、効果的な宣伝であなたのサイトに読者をひき込みましょう。

Q 17 テキストはできたけど、どうやって読み返すの？

～できたテキストはこうやって読み返す～
「どんな点に注意して読み返すといいの？」「どうやって読み返すと効果的なのか？」
ここでは「どの点に注目して、どういった方法で読み返すといいのか」について述べます。
あなたのテキストをより磨かれた、輝いた文章にする方法とは.....

(094) 読み返すときは、ここに注目！

読み返すにしても、なにか目標があるのとないのとでは、仕上がりがちがってきます。たとえば「読みやすいかどうか確かめよう」という目標をもって読み返すと、流れるようなテキストに変わっていきます。「誤解される部分はないかな」という点に注目すると、わかりやすく伝わるテキストになるでしょう。

ここでは、「何を目標にして読み返すといいのか？」ということについて考えていきます。読み返しの目標を立てるときの参考にしてください。

誤解はないか？

読み返すときは、読者になりきってテキストに臨みましょう。できるだけ客観的になって、「2 通り以上の意味にとれるような文はないか」を探します。とれる意味が 2 通りあれば致命的。そうでなくとも、曖昧な印象をもった文は、読者を混乱させます。

具体的ですか？

ピンボケした抽象的な表現はありませんか？ わかりにくく、誤解を招くような文章はないでしょうか？ 読者になりきってアラ探してください。

題名、冒頭のインパクトはあるか？

題名を読んでみて、自分が読者なら「読んでみたい」と思えますか？ インパクトのある書き出しはできていますか？ 書き出しは、読者をひきこむ大切な場所。あらためて見直したいですね。

文末表現がワンパターンになってないか？

テキストのリズムを左右する大切な視点です。読み返して、文末の表現がワンパターンになっていないかどうか確かめましょう。「だ・である」「です・ます」調の統一はいかがですか？

内容をつめこみすぎてないか？

段落ごとに1つ、多くて2つの内容になっていますか？ 内容をつめこみすぎると、わかりやすさが欠落したテキストになってしまいます。テキスト全体ではいかがでしょうか？ 主題が1つに統一されていますか？ テーマは、1つにしばりたいですね。

スキャンしやすいか？

テキスト全体の見た目はいかがですか？ 漢字が多すぎて難しそうな印象はないですか？ 文字がつまりすぎて、読みにくそうではないでしょうか？ インターネットの文章の場合は、読みやすさと同時に、見やすさが大切です。

(095) 画面で読み返す…… 読者の立場に立つ

このファイルで何回もふれてきました。読者の立場に立ってみる態度。読み返すときも、それが大切です。

さて、読者はあなたのテキストをどういった媒体で読むのでしょうか。紙面ですか？ それとも、画面ですか？ 読者の立場に立つファースト・ステップがこの選択です。

もし、読者が紙面であなたの文章をよむのなら、あなたも画面を印刷して、紙にしてから読み返しましょう。逆にWebテキストなら、読者は画面上であなたのコラムを読みます。あなたもぜひ画面を通して読み返してください。画面にあなたのコラムが表示されたらどんな印象なのか？ 最初に目につく語句は、いったいどんな語なのか？ 読んでいて目は疲れないか？

あなたの書いたテキストを、読者が読む環境にあわせ、読み返す方法を決めます。読者とシンクロし、できるかぎり主観の入らない目で自分のテキストを読み返し、アラ探しをします。

続いて、どんなふうになれば、読者の目に近づいた読み返しができるか、この問題についてふれていきましょう。

(096) しばらく間をおいて…

読み返しのさい、自分の視点をいかに読者の目に近づけるか、いかに主観を頭から追い出すか、むずかしいところですね。

客観的な第三の視点に立ってみる、とても効果的な方法があります。それは、「時間をおく」ことです。

書き終えた直後を想像してみてください。脳の細胞がヒートアップしていて、冷静になるのはなかなかむずかしいのではないのでしょうか？ たとえば、夜、書いたラブレター。書いた直後に読むとあたりまえなのに、いざ朝になって読み返してみると赤面モノ。頭が熱いときに読み返しても、冷静さを失っていますから、効果的な読み返しできません。

書き終えてから読み返す前に頭を冷やす工夫をしましょう。一晩おくぐらいがちょうどいいですね。「そんな時間はない！」ということでしたら、散歩でもシャワーでもなんでもいいのです。いったん頭からあなたのテキストを追い出して、改めて読み返すのがいいでしょう。

書いたものを頭からいったん追い出してしまっただけで、だいぶ違います。より冷静で、よりクリアな視点で読み返せます。

冷静さを取り戻す工夫、「時間をおく」、ぜひ、試してください！

(097) 音読のすすめ

文章の「流れが悪い」「リズムが悪い」といった欠点は、なかなか黙読ではつかめません。音読をおすすめします。

音読するとテキストの流れやリズムが、より具体的に見えてきます。音読は「悪文探知機」。音読しながらつまるようなら、そこになにか問題がひそんでいます。読みづらい表現が、リズムを悪くしているのかもしれないし、そもそも一文が長すぎて、読みにくくなっているのかもしれませんが。文と文をつなぐ接続詞に違和感があるのか、それとも語尾の選択が間違っているのか。

テキストの流れを確かめることができるうえ、音読には効果的な特徴がもう1つあります。

それは、「耳でチェックできる」ことです。音読によって発音されたテキストは、音として耳に入ってきます。耳でのチェックは目でのチェックとはちがう、新しい角度からの読み返しとなります。こうして、客観的な読み返しが新たに可能になるんですね。

音読が可能な環境なら、ぜひ音読で読み返してください。新たな発見、韻などもみつかるとは思いませんよ！

(注) (047) 「韻・シャレ・おやじギャク」参照

(098) 長めに書いて、バツサリ削る

文章は長ければ長いほど、わかりにくいものになります。また、(060)でも述べましたが、削ってスリムにすると、たいていの文章はよくなります。それを利用するのがここでの実践です。方法は以下のとおり。

1. コラムの長さを決めておく たとえば、40行程度としましょう
2. 決めた長さより長めに書く たとえば、50行程度書きます
3. 長めに書いた量だけ削る たとえば、40行程度まで削ります

ここで、注意が一点。長めに書こうとして、無駄な部分を初めから入れては意味がありません。例でいえば、50行まで、「無駄がない」といえるほど本気で書いてください。そこから削ることに意味があります。

読み返しの段階でも、「まだ削れるところがあるんじゃないか？」と探しましょう。これが一番の仕上げ術。

では、最後に、どんな部分を削るといいかについてふれて、本節(098)を締めたいと思います。

つめこみすぎた内容、エピソード

テキストのテーマは1つにしぼります。2つも3つもあるなら、削りましょう。内容に直接関係ないエピソードも削ったほうがいいですね。また、内容をもりあげるためのエピソードであっても本筋と関係のないものなら、短めに留めておきましょう。

順接の接続詞

「そして」「それで」「ので」といった順接の接続詞は、省略できる場合が多いようです。あまりに多用しているなら、削っていきましょう。多くの場合、なくても意味は通じます。

修飾語

修飾語は、ここぞという場面に使ってこそ、その真価を発揮します。いたるところで使いすぎた修飾語は、省いていきましょう。「とても」「たいそう」「ひじょうに」などは多くの場合不要です。

同じ言葉、同じ言い回し

同じ言葉、言い回しを連発しているなら、それも削除の対象です。

[BEFORE]

・失恋によって打ち砕かれ、失恋を受けとめるまでに、まず、仲間の大切さを知った。そしてみんなのおかげで、今、失恋の重さから逃げることなく、失恋を受けとめることができる。そしてやっと私は成長したんだ。

「失恋」という言葉と「受けとめる」という言い回しが多すぎます。同じ言葉・言い回しは省略したり、言い方をかえたりして対処しましょう。

[AFTER]

・失恋によって打ち砕かれ、あらためて仲間の大切さを知った。みんなのおかげで、今、その重さから逃げずに受けとめることができる。そしてやっと私は、成長できたんだ。

長めに書いてバツサリ削る。ぜひやってみてください！

Q 18 アクセス・アップするにはどうすればいい？

～こうすればサイトアクセスはふえる～

「どうやってアクセスを増やせばいいの?」「どうやってサイトを宣伝すればいいの?」

ここではどうやって自分のサイトのアクセスを増やすかについて書きます。

貴女のサイトをアクセス・アップする参考にしてください。

(099) いろいろな宣伝方法

いろいろな宣伝方法

みなさんはアクセス・アップのために、どんな宣伝をしていますか。方法はいろいろありますね。

1. アクセス・アップサイトに登録する
2. 検索エンジンに登録する
3. ランキングに参加する
4. リンク集に登録する
5. 同盟、リングに登録・参加する
6. 相互リンクを増やす

効果のないアクセス・アップ方法

この中で効果がないと私が思っている方法は「1. アクセス・アップサイトに登録する」です。どうしてでしょうか。

こういったサイトを見る人は、どういう人ですか？何か情報を得ようとして探している人でしょうか。それとも登録されたサイトの記事を、読みたい人でしょうか。

ここに訪れる人は、アクセス・アップしたい人だけです。あなたのサイトが、アクセス・アップの情報を提供するテキストを書いたものならば、まだ読みに来てくれる人がいるかもしれませんが、それ以外のテーマを扱ったサイトなら、よくてページを開かれるだけ。読まれることばありません。

登録されればすごい！ 検索エンジン

「当たればすごい、当たらないことが多い」というのが、「2. 検索エンジンに登録する」。大手検索エンジン、Google、Yahoo！といったサイトに登録できると、飛躍的にアクセスがのびます。しかし、登録されるのが難しいんですね。とくにYahoo！にはなかなか登録されません。

ダメもとで登録しましょう。無料ですから、登録していない人は今すぐしてください。「検索エンジン一括登録サイト」もありますよ！

一発太郎 <http://ippatsu.net/TARO/>

常連さんを増やすには.....

「急がば回れ」で継続的なアクセスを増やすには、自分のサイトの常連さんを作るのが一番。常連さんとは、あなたの仲間であったり、あなたのサイトのファンであったりする人のこと。つまり、リピーターです。

そして、そんな常連さんを作る最も効果的な方法は、実は残りの4つ「ランキング」「リンク集」「リング」「相互リンク」なのです。では、手当たり次第参加・登録するだけでいいのでしょうか。続いて、どういったことに注意しながら登録するサイトを選べばいいかを考えていきましょう。

サイトのジャンルが鍵

登録したり、参加したりするときは、次のことを基本に選んでください。それは「あなたのサイトのジャンル(分野)」です。そして、登録するサイトは、あなたと同じジャンルのサイトが集まる場所を選びましょう。

たとえば、あなたのサイトのジャンルが「日記系テキストサイト」なら、日記系のランキングサイト、日記を集めたリンク集、日記コミュニティサイトなどに登録すべきです。

なぜなら、そのサイトには日記を書いている仲間が集まってくるからです。日記ライターだけが集まるサイトなら、仲間も作りやすく、あなたのテキストが人目につく機会も増えます。そのサイトを通して、他の日記ライターさんのサイトについて「 から来たんですけど、日記読みました！」と書き込みすれば、好きなサイトさんと友達になれる可能性が高まります。その方は、あなたのサイトにも来てくれるでしょう。

また、そういうジャンルが固定したコミュニティのサイトには、そのジャンルを求めて来る人も多いです。つまり、日記コミュニティサイトなら、日記を読みに来る人もいるということ。

先ほど「1. アクセス・アップサイトに登録する」の効果が期待できないといったのも、ジャンルを考えていない点に原因があります。あなたのサイトのジャンルを考えて、アクセス・アップを図ってください。

では、4つの方法「ランキング」「リンク集」「リング」「相互リンク」について、日記サイトを例として、具体的にふれていきたいと思います。

(100) 宣伝サイトの選び方

サイトの探し方なのですが、Googleなどで「日記」と検索すればいろいろヒットします。 に選びたいサイトの系統を入れましょう。たとえばランキングサイトなら、「日記ランキング」のキーワードで探してみてください。ヒットしたら、次は選択方法です。

ランキングサイト選び方

まず、自分がランクインできそうなところを選びましょう。上位でなくても、ページトップにランクインできる、そんなサイトを探すのがいいですね。ポイントは、大手ではないサイト。大手のランキングサイトに登録しても、ある程度ア

アクセスがないと、なかなかランクインできません。まずは、少しマイナーでも、自分がランクインできそうなサイトに登録するのが第一。それと並列して、大手サイトにも登録しておくのがいいでしょう。

リンク集の選び方

日記系のリンク集を探すのが第一です。ジャンルが自分のサイトと違えば、効果は半減。また、その中でもさらにカテゴリー分けされているサイトがいいでしょう。たとえば、「主婦日記リンク集、高校生日記リンク集……」といったように。

リングの選び方

リングもリンク集と同じで、日記系のリング集を探してください。また、あなたのサイトのテーマに近ければ近いほどいいですね。たとえば、あなたのサイトが毒舌系コラムなら「毒舌日記リング」といったジャンルを探すといいでしょう。

相互リンク

長い目でみると、相互リンクを増やすのが、一番アクセス・アップにつながるのではないかと個人的には思っています。相互リンクで友達になったサイトで紹介されると、そのリンクから人が来てくれますよね。友達が友達を呼ぶなんて、宣伝効果が絶大じゃないですか。

相互リンクしてもらうサイトさんの選び方も、今までと同じです。あなたのサイトのジャンルと同じ、もしくは似ているサイトを選びます。相互リンクの場合も、テーマが似ていると、同じ事に興味をもった読者を集められます。ぜひ、テーマが似たサイトさんに申し込んでください。

申し込むさいの注意点です。

1. あなたのサイトに相手サイトへのリンクを貼っておく
2. 相互リンクしたいサイトオーナーさんそれぞれに、オリジナルのメールを送る
3. 相互リンクしてもらうのはダメもと。しつこくリンクの催促をしたりしない

とくに注意したいのが「2. オリジナルメールを送る」です。誰に送っても差し支えないような、そういった相互リンク申し込みのメールを送られても、もらった方はいい気分がしません。たとえば、

(例)

・相互リンクしてください。サイト名…URL…よろしくお願いします。

メールといえどお手紙。気持ちをこめるとお友達にもなれていいですよ。

(例)

さまへ

サイト『 』の管理人、 と申します。このたび、 さまの管理されているサイト『 ~ ~ 』に相互リンクのお願いに参りました。

『 ~ ~ 』は、いつも楽しく読ませてもらってます。個人的には 12 / 24 のネタが一番好き。こんなサイトさんと仲良くなれたらなと思ひ、勢いでお願ひのメールを送ってみました。よかったら、考えてみていただけませんか？ 当方では、<http://www.326style.com/link.html> の面白日記に『 ~ ~ 』のリンクを貼らせていただきました！ ご確認ください。

お忙しいところ申し訳ありませんが、お返事をいただけると幸いです。

それでは、お互いのサイト繁栄を願って…失礼します。

メール Webmaster@326style.com
URL <http://www.326style.com/>

ここまで、丁寧でなくてもいいかもしれませんが、気持ちをこめて書いてくださいね。

(完)

2005/11/18 作成

2006/03/30 一部改定